2014 4/8
No.1968
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

箱根町仙石原のススキ草原で３月24日、恒例の「山焼き」が行われ、真っ赤な炎が一面を黒く焦がした。山焼きは、火を入れることでススキ草原の植生と景観を維持するため、1989年に始まった。

神奈川新聞社

政経かながわ

2014 4/8 No.1968

contents

視点・点描 3
チャンスを呼び込もう

講演録 4
「最近の金融経済情勢について」
日本銀行横浜支店長　　竹澤　秀樹

国　際 8
インドネシア、有望進出先１位に
鍵は選挙結果とインフラ整備

くらし2014 10
「自助具」を知ろう！

広告珍談 12
～新聞広告が始まった⑦
ついに広告新聞が

ＮＮＡアジア経済リポート 13

会員のページ 14
ミャンマー報告会
会員の動き

会員のページ 15
2014年度事業計画

事務局だより

◇横浜定例講演会
2014年４月14日（月）
13時30分～15時
新横浜プリンスホテル　3階
「セレナーデ」
講師はＰＨＰ総研国際戦略研究センター長、主席研究員の金子　将史　氏
演題は「パワーシフトと日本の進むべき道～これからの日米関係を中心に～」

視点点描

チャンスを呼び込もう

もっと販路を拡大したい、ビジネスパートナーが欲しい―。そんな課題を抱える中小企業同士に出会いの場を提供するマッチングイベントが16日、川崎市産業振興会館（川崎市幸区堀川町）で開催される。「ビジネスリゾート２０１４」（主催・県中小企業家同友会川崎支部、共催・川崎市産業振興財団）。当日は、自らビジネスチャンスを呼び込もうという意欲的な中小企業が会場を埋め尽くしそうだ。

出展企業約90社をみると、「川崎はものづくり都市」というイメージは、もはや過去のものではないかと思ってしまう。もちろん、伝統の「ものづくり」企業は出展するのだが、飲食・弁当サービス、保険代理業、社会福祉事業、オーダーメードスーツ、葬祭業など顔ぶれは実に多彩だ。

出会いの場は、完全に仕切られた個別ブースでじっくり商談ができる「ビジネスフロア」（会館１階）と、開放的なブースが並び中央にはイベントスペースがある「リゾートフロア」（同４階）に分かれる。両フロアとも中小企業の実際の姿に触れられ、企業経営者だけでなく企業研究の学生や大学教員らにも役立ちそうだ。

事前申し込みが必要だが、大企業の社員が自社の開放特許を紹介する市知的財産交流会（同９階）や、弁護士、税理士、公認会計士らが悩みやトラブルの相談を受ける士業リレーショートセミナー（同10階）なども開催される。

2012年に開催された前回のビジネスリゾートの様子

ユニークなのは、市内に拠点を構える大相撲の春日山部屋やワールド女子プロレス・ディアナ、川崎フロンターレ、川崎新田ボクシングジムが出展すること。イベントスペースでそれぞれがプロの技を披露し、盛り上げに一役買う。

前回のビジネスリゾートは２０１２年に開催された。終了後のアンケートには出展企業のほぼ半分が「マッチングあり」と回答。中には「複数の企業から声が掛かった」という企業もあったという。ことしもさまざまな出会いが期待される。

（神奈川新聞社川崎総局長　小松　裕史）

ついに広告新聞が

新聞の題名は、広告的な意味合いを持っている。朝日は日の出とともに新鮮な記事を読んでほしい。毎日は、毎日お読みください、ということだろう。読売は江戸時代、かわら版を読み聞かせて売り歩いた、つまり声の「広告」をそのまま題名にした。

新聞黎明期、発行元は題名にいかに苦労したか、珍物を列記するとその痕跡が分かる。まず東京から。公私雑報、遠近新聞、海陸新聞、風のたより、そよふく風、目覚新聞、万国女新聞、花の都女新聞、天理可楽怖（電信や電報をテレグラフと）、開花新聞、影響新聞、魁到新聞、平仮名絵入新聞、仮名書新聞、かなよみ、ふりかな新聞、四十八字新聞誌、まいにちひらがなしんぶん、めさまし、あけぼの、あら磯新聞、童子あら熊新聞、東京さきがけ、新聞心得草、各国新聞雑誌、吹寄新聞、真新聞、普通論新報、日本たいむす、利益新聞など。

各地の題名巡りをしよう。青森＝奥羽から北海道まで網羅したのか秋田青森函館新報、新潟＝ありあけ新聞、米沢＝置賜新聞とは最上川上流の地名。水戸＝よほど程度が低い記事なのか通俗新聞、高崎＝書抜新聞。横浜＝仮名読新聞、大阪みたいな此花新聞。中津＝田舎新聞、甲府＝生読新聞、いろは新聞、解釈新聞、大阪を連想する木の花新聞、明告新聞、有喜世新聞、憂国議事新聞、政談いろは新聞、国会準備新報、なぐさみ、真砂新聞、絵入袋新聞、明治なってなぜか江戸新聞、こがね新聞、実用新聞、東京電報、勉強新聞、公金新聞、大津＝さゞ浪新聞、京都＝中外電報、隔日新聞とは1日置きの発行？　大阪＝コケッコーと鶏鳴新報、浮世風聞、浪花実生新聞、でっち新聞、和歌山＝弱山新聞、神戸＝花香美新聞では記者はやる気なく、購読者もいないね。岡山＝備都苦利新聞、広島＝美佐々新聞、徳島＝普通新聞、松山＝愛比売新聞、布多那新報、高松＝腰抜新聞とはふざけるナ。下関＝馬関日報、大分＝田舎新報、一週新聞とは週刊紙？。福岡＝めさまし新聞、九州を意味する鎮西自由新聞。熊本＝不知火新聞。

1878（明治11）年、東京で「引札新聞」がでた。引札は江戸時代のチラシのこと。広告新聞とあだ名されたのは福沢諭吉の《時事新報》。1面から広告だったから。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）1ページ全部を広告にした「時事新報」。明治28年9月1日発行